

成長過程のクリスチャンのための10の鍵

3. 伝道―最も重要な任務

1996年12月下旬。ロサンゼルス。クリスマスプレゼントのラッピングという楽しい行事のために大家族が集まった。二組の夫婦、そしてそれぞれに家族のメンバーが増えたため、大家族となった。その夜、人数が多すぎたので、5人の子どもたちはガレージで寝ていた。改装された建物だったので、ドアのそばには電気ストーブが置かれ、寒い夜中、部屋を暖め続けた。

次の日の早朝、突然ストーブがぱっと燃え上がり、出入り口をふさいでしまった。部屋はたちまち火の海と化した。大急ぎの二番は、その時の言葉にできないほどの恐怖を表わしている。 “燃えてるよー！” という子どもの叫びが聞こえてくるだろう。ひどく取り乱した父親は、愛する子どもたちを助け出すために、夢中で炎の中に突入した。そのせいで、彼は体の五十%にやけどを負った。悲惨なことに、五人の子ども全員が焼死した。ガレージの窓の鉄棒が彼らの脱出を妨げたのが死亡の原因だった。ドアは一つしかなく、出口は炎に包まれていた。

あなたはちょうど良い時に帰って来る。ストーブがぱっと燃え上がる寸前である。あなたは暗闇をじっと見て、五人の子どもたちが眠っている、とても穏やかな光景を目にする。今にも部屋が地獄と化し、怖がる子どもたちの体を燃やし尽くすことをあなたは知っている。あなたは安らかな心で、そこから歩み去ることが出来るだろうか？ いや、できない！子どもたちを起こし、死のわなから逃げるようにと警告しなければならぬ！

世界は無知という暗闇の中で静かに眠っている。死から逃れるために残された “ドア” は一つしかない。罪という鉄棒は人々の救いを妨げ、同時に、永遠のさばきという炎をもたらす。さばきの日はどれほど恐ろしい日になるのだろうか！全能の神の怒りの炎は永遠に燃える。教会は、手遅れになる前に人々を起こすという任務を任されている。私たちは、自己満足の中で、彼らに背を向け、歩み去ることはできない。父がどのようにして炎の中に飛び込むかを想像してほしい。その愛に限界はない。神が与えてくださった重要な

な任務に対してどれだけ献身しているかで、失われた人々をどれだけ愛しているかが分かる。向こう見ずに炎の中に飛び込んで、人々に逃げるようにと警告する人はわずかしかない。 (ルカ10:2) どうかその一人になつてほしい。私たちに選択肢はない。使徒パウロは言っている。 “もし福音を宣べ伝えなかつたなら、私はわざわいだ。” (1コリント9:16)

“Prince of Preachers” の Charles Spurgeon はこう言っている。 “人々が救われることを望んでいないなら、あなた自身、まだ救われていない。それは確かだ。” クリスチャンなら、世の救いに対して無関心でいられるはずがない。クリスチャンのうちにある神の愛が、失われた人々を探し、救うようにと促す。

あなたが救われてからは、まだ救われていない友人や家族に福音を通して影響を与えるという時間があまりないのではないだろうか。救いという最初の衝撃の後、人々はあなたを小さくてきれいなリボンのかかった箱に入れ、あなたに対してよそよそしい態度をと

る。まだ聞いてもらえる間に、短い時間を利用することは大切だ。

深い悲しみに陥らないためのアドバイスがある。私がまだ幼いクリスチャンだった時、透明なシヨールームの中で野生の雄牛のように行動したことによって、取り返しのつかないような損害を及ぼしてしまった。母、父、そして多くの友人に対して、無理矢理 “キリストを信じる決心” をさせようとした。私は誠実で、熱心で、愛情があり、親切で、愚か者だった。救いは “決心” を通してではなく、悔い改めを通して与えられるものであることを理解していなかった。悔い改めは神から与えられるものである。(2テモテ2:25) 聖書は、神が “引き寄せる” ことをしない限り、人が御子のもとに来ることとはできないと言っている。たとえ決心したとしても、その人に罪の確信がないならば、結局は死産となってしまうだろう。

“知識なしの熱心さ” によって、私は最も手を差し伸べたい人たちに予防接種をしてしまった。愛する人々の救

いほど大切なことはなく、それを逸することはしたくない。もし逸してしまふなら、次の機会はないだろう。彼らのために熱心に祈り、彼らが救われることを熱心に神に感謝しよう。彼らにあなたの信仰を見せなさい。彼らにあなたの親切さ、本当の愛、寛大さを感じさせなさい。もし皿洗いを手伝ったことがないならば、頼まれなくてもやっつてあげなさい。母や姉妹のために花を買ってあげなさい。誕生日ではない日でも、キャンデーを買ってあげなさい。彼らの立場に立ってみなさい。

あなたは永遠のいのちを見つけた。死のときは取り除かれた！その喜びは言い表せないほどである。しかし、彼らにとっては、あなたは洗脳され、変な宗派の一員になったのだと思われている。だからこそ、あなたの愛の行動が、何千もの雄弁な説教よりも多くのことを語る。

嘘、欺き、偽証などは、神にとっては非常にぞつとするものであり、不愉快であり、ご自身の聖い性質に反対するものである。聖書は、その主張を実証するために、『不可能』という言葉を通して強調する。

熱心さを導くことのできる知識を得るまでは、口論は避けるべきである。

知恵があるように、神のタイミングに對して敏感であるように祈ろう。一発しかないかもしれないのだから、大切にしよう。冷静でいよう。そうしないなら、一生後悔することになりかねない。私を信じてほしい。愛する人や親友に對して、あなたの方から“座って。あなたに話したいことがあるから。”と言うよりも、彼らの方から“イエス・キリストへのあなたの信仰について聞かせてください。”と言われる方がずっといい。

自分の信仰をいつでも人々に分かち合うべきであると理解しておくことは重要である。聖書には、分かち合うべき時はたった二回と書かれている。一“時が良くて悪くても”（ヘテモテ・ニ）使徒パウロは、彼自身が個人的にも証人になれるように祈ってほしいと嘆願している。“私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるように。・私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように。・”（エペソ 6:19-20）

周りの人々が愛している人々に語るという重要な責任が私たちにはあることを忘れてはいけない。あなたが口を開いて福音を語るたびに、他のクリスチャンが真剣に祈ってきた祈りの答えとなれるだろう。おそらく、その人は、主が忠実な証人を用いて、自分の愛する父や母に語ってくれるようにと、神に叫び求めていたかもしれない。そして、あなた、がまさにその祈りの答えとなるのだ。あなたが、神が用いたいと願っている、その真実で忠実な証人なのだ。

世とそこにあるすべての痛みを決して忘れてはいけない。不信心な人々の結末をいつでも覚えておこう。あまりに多く人が、ふかふかな席にどっしりと腰をおろし、内向的になってしまっている。私たちの世界は、壁のない修道院となり、友人たちは、教会の、中、にいる人々だけで制限されている。イエスは“罪人たちの友”だったのに。だからこそ、救いのために人々と友達になり、時間を慎重に使おう。忘れてはならないことは、自分の罪のうちにあるすべての人が、世のさばきを受けることになるということだ。地獄はその恐ろしい口を大きく開けている。救いの福音を任される以上

に、重要な任務は他にない。つまり、死に向かっている人類を永遠の幸福へと救い出すために、神と共に働くということである。